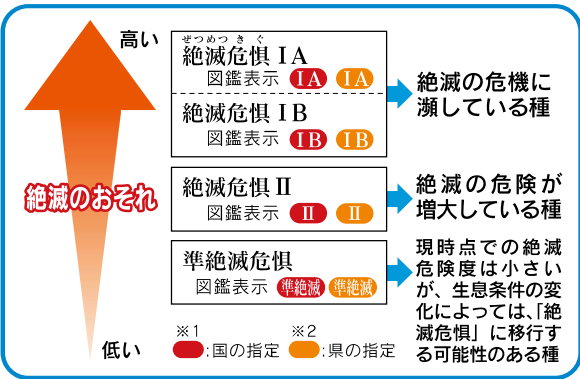


エコパークゾーンの 生きもの図鑑



絶滅のおそれのある生きもの

図鑑中の **IA**、**IB**、**II**、**準絶滅** などのマークがある種は、国や県が絶滅のおそれがある生きものとして指定した種です。これらの種が将来にわたって生息していけるようエコパークゾーンの環境を守っていきましょう。



生きもの図鑑の使い方

エコパークゾーンで見られる生きものがのってるよ。見つけたら日時と場所を記入していこう。全部見つけることができるかな？

- ※1 環境省レッドリスト
その他無脊椎動物2020、貝類2020、維管束植物2020、鳥類2020
- ※2 福岡県の希少野生生物 ー福岡県レッドデータブックー
貝類2014、甲殻類その他2014、植物2011、鳥類2011

カニやエビ、ゴカイの仲間

エコパークゾーンで見られる生きもの

アシハラガニ(葦原蟹) (甲幅3cm程度)



河口付近のヨシ(アシ)原や草むら、土手などに巣穴を掘って生息する。甲らや足は暗緑褐色で、ハサミは淡黄色。

日時 /

場所 /

クロベンケイガニ(黒弁慶蟹) (甲幅3cm程度)



河口付近の草むら、土手などに巣穴を掘って生息する。体の色は紫褐色でハサミは淡白色。足にたくさん毛が生えている。

日時 /

場所 /

ハマガニ(浜蟹) (甲幅4.5cm程度)



河口付近の草むら、土手などに巣穴を掘って生息する。全体的な体の色は紫褐色だが、甲らや足などに橙(オレンジ)色の縁取りがある。

日時 /

場所 /

アカテガニ(赤手蟹) (甲幅3.5cm程度)

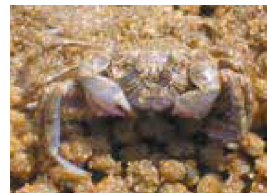


海の近くの山や森、河口の草むらなどに巣穴を掘って生息する。甲らの側面に切れ込みはない。その名の通りハサミが赤いのでアカテガニ。

日時 /

場所 /

コメツキガニ(米搗蟹) (甲幅1cm程度)



河口や内湾の砂浜に巣穴を掘って生息し、甲らは丸みがある。夏には、オスが背伸びをして両方のハサミを振り下ろす求愛行動が白と杵で米をつく動作に似ているためこの和名がつけられたとされている。

日時 /

場所 /

オサガニ(長蟹) (甲幅3.5cm程度)



内湾の海に近い砂泥地に生息する。甲らは腹側が赤く、横長の長方形で細長い目が特徴。

日時 /

場所 /

マメコブシガニ(豆拳蟹) (甲幅1cm程度)



甲らは丸く、拳の形をしている。横だけでなく前後にも歩くのが特徴。春から夏にかけて、オスがメスを抱えて歩く姿が見られる。

日時 /

場所 /

ハクセンシオマネキ(白扇潮招) (甲幅2cm程度)



干潟に巣穴を掘って生活している。潮が引いているときに砂の上で活動する。メスのハサミは左右ともに小さいが、オスは左右のどちらかが白くて大きくなるのが特徴。

日時 /

場所 /

カニやエビ、ゴカイの仲間

エコパークゾーンで見られる生きもの

二枚貝

エコパークゾーンで見られる生きもの

イソガニ(磯蟹) (甲幅2cm程度)



磯や岩場の陰や石の下にひそんでいる。ハサミの間に膜の袋がある。

日時/

場所/

チゴガニ(稚児蟹) (甲幅0.8cm程度)



砂泥干潟に深さ15cm前後の巣穴を掘って生活する。体は暗褐色。雄の口のまわりは夏季にはエメラルドグリーン色になり、またハサミを激しく上下させて求愛や威嚇を行う。

日時/

場所/

クルマエビ(車海老) (体長15cm程度)



内湾の砂泥地に生息する。日中は砂の中に潜っているため、夜間に観察されることが多い。大きくなったら沖に移動する。

日時/

場所/

ワレカラ(破殻)



ワレカラは甲殻類で、海藻の上などを生活の場としており、大小さまざまな種類が存在する。

海藻を食べればワレカラも知らないうちに食べていることから「ワレカラ食わぬ上人なし」という諺(ことわざ)がある。

日時/

場所/

ゴカイ(沙蚕) (体長5~15cm程度)



円筒形の細長い体で、内湾や河口の砂泥質の干潟に生息する。100前後の体節が並び頭・胴・尾の3部に区分され、頭部に2対の目と4対の触角がある。

日時/

場所/

タマシキゴカイ(玉敷沙蚕) (体長15~20cm程度)



太くてエラを持つ体前部と、細い尾部を持つ。海岸の砂泥干潟にU字形の巣を掘ってすみ、尾部のある方の巣穴入口にとぐろを巻いた糞塊を積む。

日時/

場所/

アサリ(浅蜆) (殻長3~4cm)



食卓でおなじみのアサリ。和白山湯で食材をゲットしよう! でも、3cm以下のアサリは海に戻してね。

日時/

場所/

オキシジミ(沖蜆) (殻長5cm)



シジミを大型にしたような丸い貝。

日時/

場所/

サルボウガイ(猿類貝) (殻長7.5cm)



身が赤く、殻が毛深く、猿のほおに似ていることからこの名前がついた。缶詰の赤貝として使われる。

日時/

場所/

ソトオリガイ(衣通貝) (殻長4.5cm)

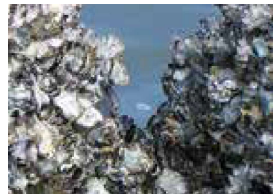


殻が薄くて透き通っている貝。太い水管が殻に収まりきらずに出ている。

日時/

場所/

マガキ(真牡蠣) (殻長9cm)



鍋物などでもおなじみのカキ。実は水質浄化能力も高い。

日時/

場所/

ホトギスガイ(不如帰貝) (殻長2cm)



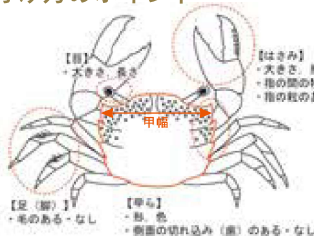
殻の模様がホトギスの羽に似ている。糸を出してマット状に固まる。

日時/

場所/

●カニの種類の見分け方のポイント

右図のように、カニの【はさみ・目・足・甲ら】には、それぞれ特徴があります。この特徴をよく観察すると種類を見分けることができます。また、行動や巣穴も見分ける特徴になります。



●ゴカイの特徴

ゴカイ類は砂の中で生活しています。干潟の有機物を餌にしており、干潟をきれいにしてくれます。同時にシギ・チドリなどの渡り鳥の餌として生態系の重要な役割を担っています。



コラム カキによる水質浄化実験

濁った水に、カキを入れて1時間たつと



1時間後



こんなにきれいになった!

カキのえさは海中の植物プランクトンなどで、体内に海水を取り込み、エラで濾しとって食べています。カキが濾過する海水の量は、1時間に10~20リットルといわれています。

巻貝

エコパークゾーンで
見られる生きもの

干潟で見られるウミニナやヘナタリの仲間

●見分け方のポイント ウミニナの殻口には白っぽい滑面があるが、ホソウミニナにはない。また、フトヘナタリの殻口はラッパ状に開いている。

ウミニナ(海蝓)
(殻高3cm)



日時/ 場所/

ホソウミニナ(細海蝓)
(殻高2.5cm)



日時/ 場所/

フトヘナタリ(太甲香)
(殻高4cm)



日時/ 場所/

アラムシロ(荒筴) (殻高1.5cm程度)



日時/ 場所/

アラムシロは干潟のそうじ屋さん。死んだ貝の肉などを食べて干潟を掃除する。

タマキビ(玉黍) (殻高1~2cm)



日時/ 場所/

タマキビは貝なのに海水がきらい。海水のかからない高いところにすんで藻などを食べる。

コラム これも貝の仲間だよ

干潟に怪獣出現?
いえいえ、これは「フレリゲアメフラシ」というアメフラシの一種です。
貝殻は退化しているけど、貝の仲間の軟体動物なんですよ。



魚など

エコパークゾーンで
見られる生きもの

マハゼ(真沙魚) (体長25cm程度)



体型はやや細長い。体色は淡褐色で、体側中央に不規則な暗褐色斑が並ぶ。尾びれの下部1/3は無斑である。第1背びれの後端に明瞭な1個の黒色斑がある。

日時/ 場所/

ボラ(鰯) (体長60cm程度)



体はやや側扁し、頭部はやや扁平である。尾びれの後縁は深く切れ込む。眼にはよく発達した脂腺(しけん)(透明膜状のまぶた)をもつのが特徴である。

日時/ 場所/

スズキ(鱸) (体長100cm程度)



体型は円柱状で側扁し、口は大きく、下あごが上あごより前に出る。体色は背中側が緑黒色から灰緑色で、体側から腹部にかけて銀白色をしている。

日時/ 場所/

アカエイ(赤鱒) (体盤幅50cm程度)



多くのエイは、ごく平らな体をしていて、長く伸びたムチ状の尾を持つ。背びれが退化しているものも多く、アカエイなどではこれが毒針に変化している。

日時/ 場所/

メバル(目張) (体長20cm程度)



全身は黒褐色で、数本のぼんやりとした黒い横縞があり、和名は大きく張り出した目に由来している。春告げ魚とも呼ばれる。

日時/ 場所/

ナマコ(海鼠) (体長20~30cm程度)



ナマコは、棘皮動物門ナマコ綱に属する海生動物の総称。世界に約1,500種、日本にはそのうち200種ほどが分布する。食用になるのは、ナマコなど約30種類。寿命は約5~10年。

日時/ 場所/

コウイカ(甲烏賊) (外套長17cm程度)



アマモに産み付けられたイカの卵

外套膜(がいとうまく)は背腹にやや扁平(へんあつ)されたドーム形。左右両側には全縁にわたってひれがある。初夏になると内湾に集まって、海藻などに直径1cmぐらゐのブドウの実のような卵を、1個ずつ密着させて産み付ける。

日時/ 場所/

マダコ(真蛸) (体長60~100cm程度)



各腕の長さはほぼ等しく、吸盤が70~80個ずつ二列に配列されている。水温15度以上ならいつでも卵を産むが、多くは春から夏に岩棚の下や石の陰に卵塊を産み付ける。

日時/ 場所/

鳥類

エコパークゾーンで見られる生きもの

夏鳥：春に日本より南の地域から渡ってきて繁殖し、秋には南の地域に渡って冬を過ごす鳥。
 冬鳥：秋に日本より北の地域から渡ってきて冬を越し、春には北の地域に戻って繁殖する鳥。
 留鳥：博多湾周辺で1年中みられる鳥。
 旅鳥：日本より北で繁殖し、日本より南で冬を越す鳥。春の北上や秋の南下の渡りの時期に見られる。

陸ガモ類

ヒドリガモ(緋鳥鴨) (冬鳥・全長49cm)



和白天湯で最も多く見られる陸ガモで海藻を好んで食べ、アオサもよく食べている。雄成鳥は頭から胸は茶褐色で額から頭頂がクリーム色。

日時 / 場所 /

オナガガモ(尾長鴨) (冬鳥・全長オス75cm/メス53cm)



他の陸ガモに比べて体が長く、文字どおりの長い尾を水上に立てて逆立ちで水草などを採餌する。雄成鳥は頭部から後頸が黒褐色、前頸から胸が白色。

日時 / 場所 /

マガモ(真鴨) (冬鳥・全長59cm)



家禽として飼育されるアヒルの原種で日中は水面で休み、夕方以降に水草や種子を採餌することが多い。雄成鳥は緑色の頭と黄色のくちばしが目印。

日時 / 場所 /

カルガモ(軽鴨) (留鳥・全長61cm)



日本各地で普通に繁殖する唯一のカモ類。水草や種子が主食であるが水生動物も食べる雑食のカモ。くちばしの先に黄色い模様があるのが目印。雌雄同色。

日時 / 場所 /

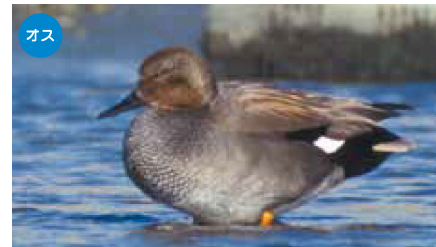
ツクシガモ(筑紫鴨) (冬鳥・全長63cm)



日本では九州北部以外ではあまり見ることのできない大型のカモで、雌雄同色で、鮮やかな色彩が特徴。干潟の上を歩きながら二枚貝、甲殻類等を採餌。

日時 / 場所 /

オカヨシガモ(丘葎鴨) (冬鳥・全長50cm)



地味な色のカモで、他のカモの群れの中に数羽混ざっていることが多い。餌は水草や種子で、夕方以降に採餌することが多い。

日時 / 場所 /

陸ガモ類

コガモ(小鴨) (冬鳥・全長38cm)



日本のカモ類では最小。藻類や小さな種子を採餌することが多い。雄成鳥は、眼のまわりから後頸にかけて緑色で尻に三角形をした黄色の斑を持つ。

日時 / 場所 /

ハシビロガモ(嘴広鴨) (冬鳥・全長50cm)



スコップのような形をした大きなくちばしが特徴。水面に円を描いてくちばしをつけて泳ぎながら水を吸い込み、プランクトンや種子をろ過して食べる。

日時 / 場所 /

海ガモ類

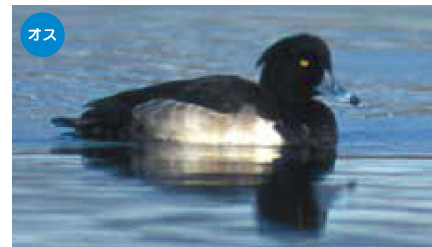
スズガモ(鈴鴨) (冬鳥・全長45cm)



大群で海面に浮かぶ。海に潜って貝類や甲殻類を好んで採餌する。貝は丸飲みして胃で砕く。雄成鳥は胸、尾が黒く、頭部は緑色や紫色の光沢がある。

日時 / 場所 /

キンクロハジロ(金黒羽白) (冬鳥・全長40cm)



数羽から数十羽の群れでいることが多く、海に潜って採餌する。貝や甲殻類のほか水草も食べる。雄成鳥は腹だけが白く後頭に垂れ下がった冠羽がある。

日時 / 場所 /

ホシハジロ(星羽白) (冬鳥・全長45cm)



数羽から数十羽の群れでいることが多く、海に潜って採餌する。動物質のものも食べるが、水草をよく食べる。雄成鳥は茶色い頭と黒い胸をしている。

日時 / 場所 /

カイツブリ類

カンムリカイツブリ(冠鳩) (冬鳥・全長56cm)



日本のカイツブリ類で最大。海に潜って魚類を好んで食べる。鋭く尖ったくちばしと長い首をもち、頭部に黒と赤褐色の飾り羽をもつ。雌雄同色。

日時 / 場所 /

シギ・チドリ類

ハマシギ(浜鷗) (旅鳥/冬鳥・全長21cm)



シギ・チドリ類の中で、博多湾で最も多く見られる。群れで行動し、密集して飛び回る。大きな群れは1000羽を超える。干潟を忙しく動き回りゴカイなどの餌を捕る。

日時/ 場所/

ミユビシギ(三趾鷗) (旅鳥/冬鳥・全長19cm)



日本のシギ類で最もよく砂浜を利用する。波打ち際で波が引くと海側に走り甲殻類などの餌を捕り、波が寄せると陸側に退くことを繰り返して活発に動く。

日時/ 場所/

チュウシャクシギ(中杓鷗) (旅鳥・全長42cm)



下に湾曲したくちばしの特徴。泥の上や浅い水中を歩きながらくちばしを泥に差し込んで、大型のカニを捕まえ足を落としてから飲み込む。

日時/ 場所/

トウネン(当年) (旅鳥・全長15cm)



博多湾でよく見られる小型のシギ類。春と秋に渡りの途中で立ち寄る。群れで行動し、干潟を忙しく動き回りゴカイなどの餌を捕る。くちばしが短い。

日時/ 場所/

キアシシギ(黄足鷗) (旅鳥・全長25cm)



中肉中背のシギ類。名前のとおり脚が黄色い。春と秋の渡りの途中で立ち寄る。干潟や浅い水の中でくちばしを泥に差し込んでカニやゴカイを捕る。

日時/ 場所/

アオアシシギ(青足鷗) (旅鳥・全長35cm)



名前のとおり脚は緑青色。浅い水中を歩きながら小魚、甲殻類などを捕まえる。時には水の中にくちばしをつけて半開きにしたまま走り回って採餌する。

日時/ 場所/

シギ・チドリ類

ソリハシシギ(反嘴鷗) (旅鳥・全長23cm)



上に反ったくちばしと黄色い足が目印。内陸部よりも海岸部の干潟などを好む。潮の引いた干潟などを小走りで動き回って、カニやゴカイなどを食べる。

日時/ 場所/

メダイチドリ(目大干鳥) (旅鳥・全長19cm)



柿色の胸が目印。若干泥っぽい干潟や砂浜を好む。ゴカイを主食とし、巣穴からゴカイを慎重に引き出して食べる。シロチドリと混群を作るものも多い。

日時/ 場所/

ミヤコドリ(都鳥) (冬鳥・全長45cm)



赤いくちばしと脚を持つ。潮が引いた干潟や岩礁帯で採餌する。特に貝類を好み、縦に平たくくちばしで二枚貝を上手に開けて食べる。カニやゴカイも食べる。

日時/ 場所/

シロチドリ(白千鳥) (留鳥・全長17cm)



じっと立ち止まって周りの地面を注視し、小動物を見つけると駆け寄って食べる。これをせわしなく繰り返す。大きな群れで生活し、繁殖期には砂礫地に営巣。

日時/ 場所/

ダイゼン(大膳) (旅鳥/冬鳥・全長29cm)



泥っぽい干潟を好み、干潟を小走りにふいに立ち止まり地表をつついて採餌する。ゴカイを好む。動作はシロチドリなどよりもゆっくりしている。

日時/ 場所/

ウ類

カワウ(河鷗) (留鳥・全長81cm)



黒く大きな水鳥。水かきを使って上手に潜り魚を捕る。ウ類の翼は他の水鳥よりも水をはしく油分が少ないので石の上などで翼を広げて羽を乾かす。

日時/ 場所/

鳥類

エコパークゾーンで見られる生きもの

サギ類

ダイサギ(大鷺) (夏鳥/留鳥・全長90cm)



全身純白。くちばしと頸がひととき長い大きなシラサギ。水辺をゆっくり歩いて魚を探す。時々立ち止まり、餌を見つけたと瞬間的に頸を伸ばして捕まえる。

日時/ 場所/

アオサギ(蒼鷺) (留鳥/冬鳥・全長93cm)



全体に灰色の大きなサギ。水辺をゆっくり歩いたり、じっと待ち伏せしたりしながら魚を捕る。捕った魚はくわえ直して頭から飲み込む。

日時/ 場所/

トキ類

クロツラヘラサギ(黒面琵鷺) (冬鳥/旅鳥・全長76cm)



しゃもじ形のくちばしを持った水鳥。水の中にくちばしを少し開いて入れ、左右に振りながら歩き回りくちばしに触れた魚などを捕る。生息数は世界で2700羽程度。

日時/ 場所/

カモメ類

ウミネコ(海猫) (冬鳥/留鳥・全長47cm)



日本海付近の特産種。中型のカモメ類であり、成鳥の尾羽に黒帯が残るのは本種だけ。堤防、岩場などで休息している。「ミャー」と猫のような声で鳴く。

日時/ 場所/

ユリカモメ(百合鷗) (冬鳥・全長40cm)



赤いくちばしと脚を持つ全体に白っぽい小型のカモメ類。日本で見られる小型のカモメ類はほとんど本種。夜を海面に浮かんで過ごし、様々な方法で魚を捕る。

日時/ 場所/

コアジサシ(小鯀刺) (夏鳥・全長26cm)



海岸や砂礫地で集団で繁殖する。繁殖地に人などが近づくと激しく鳴き、急降下して威嚇する。停空飛行から真逆さまにダイビングして魚を捕る。

日時/ 場所/

植物

エコパークゾーンで見られる生きもの

ハマニンニク(浜大蒜) (高さ1~1.5m)



海岸の砂地に生える多年草。ニンニクの葉に似ているが、じつはイネ科。北方植物で、博多湾が生育場としては最も南。

日時/ 場所/

ハマヒルガオ(浜昼顔) (高さ10cm、花は4~5cm)



海岸の砂地に生える多年草。茎を伸ばしながら根を深くはっていくので、砂浜でも安定して生育できる。

日時/ 場所/

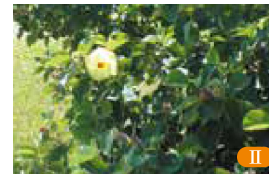
ハマゴウ(浜栲) (高さ60cm以下、花は1~1.5cm)



砂浜などに生育する落葉低木。冬に葉がなくなると、枯れ枝が砂浜をはっているように見える。青紫の花はとてもきれい。

日時/ 場所/

ハマボウ(浜朴) (高さ2~3m、花は5cm)



海岸沿いなどで育てる落葉低木。ハイビスカスの仲間。夏に黄色い花が咲く。

日時/ 場所/

ウラギク(浦菊) (高さ30~60cm、花は2cm)



塩水のかかる湿地に生える越年草。「浦」は「海辺」という意味。うす紫色の、かわいらしい花が咲く。

日時/ 場所/

ツルナ(蔓菜) (高さ40~60cm、花は5mm以下)



海岸の砂地に生える多年草。名前に「菜」がつく植物は食べられるものが多い。食べると少し塩辛い味がする。

日時/ 場所/

シバナ(塩場菜) (高さ10~30cm)



塩分を含む湿地に生える多年草。昔は塩田(=塩場)の周囲でよく見られた。若葉が食べられる。

日時/ 場所/

ハママツナ(浜松菜) (高さ20~60cm)



海岸の砂地に生える1年草。秋になると赤く紅葉する。食べることができる。

日時/ 場所/

●海の中の植物たち

アオサ<海藻>



日時/ 場所/

タマハハキモク<海藻>



日時/ 場所/

アマモ<海草>



日時/ 場所/